

令和4年度 江戸川区立南篠崎小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> よく考え、進んで学ぶ子ども 明るく思いやりのある子ども 心身ともにたくましい子ども きまりを守り、責任を果たす子ども 	<ul style="list-style-type: none"> 目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像 	<ul style="list-style-type: none"> 笑顔いっぱい、友達いっぱい、夢いっぱい かしく やさしく、たくましく 正しく 子どもの可能性を見いだし、最大限に伸ばす教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果> 新型コロナウイルス感染症対策により教育活動に制限はあったが、児童が学校に来るのが楽しみになるような授業や活動が実施できた。 各教員の得意分野を中心にミニ研修会を実施したことで、指導の幅を広げ授業への活用ができるような意見交流が活発になった。 <課題> 学習指導要領に基づいた日々の教科指導や生活指導の実践並びに学校主体の教育活動への改善・充実を図る。 組織的な対応で児童一人一人の存在を大切に指導、支援を全教職員で行えるようにする。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
					取組	結果	評価	コメント		
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 算数ベーンシフト診断テストでの学力定着を把握する。 放課後補習教室(算数)の実施 スタディパスの実施 主体的な学びへつながる教材の工夫 eライブラリーアドバンスを活用した学力の向上(江戸川っ子スタディウィークの積極的な取組) 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年診断テスト平均正答率5%向上 児童アンケート「授業が楽しい」90%以上 児童アンケート「授業の内容がわかる」80%以上 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 診断テスト3%向上 「授業が楽しい」約85% 「授業の内容がわかる」約90% 江戸川っ子スタディウィークの取組により、朝の時間、定期的にeライブラリーアドバンスを活用した学習に取り組んでいる。基礎・基本的な学習の向上につながっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開で実際の授業を見ることができた。 学習に取り組む子供たちの姿が見れてよかった。 補習教室で学習を補ってくれるのはよい。 学校のホームページに日常の様子をアップしてくれるとさらに様子が分かると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域・保護者への周知の工夫を図る。 HPや学校だより等での取組についての情報発信
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 1日1回の外遊びの奨励、休み時間の体育館開放 課題解決を目指した授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「すんで体を動かしているか」90%以上 体を動かすことが好きな児童90%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 「すんで体を動かしている」約85% 「体を動かすことが好きな児童」約87% 外遊びのできる時は、多くの児童が校庭で遊ぶことができる。授業内では、基礎・基本的な学習の向上につながっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防に努めながら活動に取り組むことができてよい。 運動会や学校公開の様子から、実際に児童の運動する姿が見られてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の学習における場の工夫や問題解決に向けた授業改善
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) 学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館を活用した調べ学習(3年以上)の実施 教員による読み聞かせの実施 読書科ノートの活用の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「調べ学習は好きですか」80%以上 児童アンケート「本が好きですか」80%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 「本を使って調べ学習をしていますか」80.4% 「本を読んでいますか」86.4% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くのお子さんの調べたものを見てみたい。 調べたまとめた作品を様々な場へ出品できたことがよかったです。 タブレット端末をよく活用し、効果的に調べることができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館司書の連携 読書科の学習計画
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> メンタルルームの活用促進 副読交流、交流及び共同学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間エンカレッジルーム当番を設け、ミニケース会議等で共通理解をした児童対応等にあたる。 副読交流する学校と連携をとり、その子興味・関心に基づいた取組を考え、互いに理解を深めあう時間にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「学校が楽しい」等の学校への満足度に関する回答95%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 配慮を要する児童の教員の把握は週1回のミニケース会議等で情報を共有しており、組織として適時指導することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 様々な問題を抱えた児童がいるかと思いますが、引き続き指導をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ケース会議を生かしたさらなる指導の充実と徹底
	子供たちの健全育成	<ul style="list-style-type: none"> いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 「たのび」サポートチームや生活指導連絡協議会の活用 	<ul style="list-style-type: none"> いじめの事象が発覚した場合はすぐいじめ対策委員会を開く。 各種コンテストへの奨励による自己実現の設定 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ問題解決100% いじめ見逃しゼロ(100%) 児童アンケート「学校楽しい」90%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめの訴えに対して、組織的な対応を行ったことで、改善し、再発防止につながった。 専門機関と早急な対応を図り、早期解決につながった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 子供の様子で気になることがあるので、担任の先生やスクールカウンセラーと相談し解決していきたい。 子供同士のトラブル等起きた時の対応について今後も相談させていただきたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門機関との連携の充実 早期発見につながるより組織的な取組の方の工夫
	一人の南っ子のための対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> ケース会議を活用した、児童理解と指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週木曜日に行い、様々な事案について情報交換し、一貫した指導の共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度末までの実施率90%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 現在困っている児童の情報交換及び対応について共有することで、一貫した指導を行うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 早急な対応により解決につながるよう引き続きお願いします。 友達とのトラブルについて担任の先生に相談し、親身になって話を聞いていただきよかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導法の工夫と共有化。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動についてアンケートを実施し、よりよい教育活動を目指した意見を求め、工夫・改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期と3学期において保護者・地域へアンケートを実施し、その結果を考察し、今後の教育活動に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域のアンケートにおいて、肯定的な答えが85%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の充実に関するアンケートにおいて、肯定的な答えが80%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 以前に比べて教育活動が再開されてきているので、引き続き充実した教育活動をお願いします。 運動会では、感染症予防策を講じながら今までよりも多くの家族が参観できてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい教育活動を実施するためにも、保護者や地域、学校関係者の方々の意見も伺いながら進める。
	学校公開等の実施	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防対策を講じながら、児童の学習の様子や生活の様子を公開し、保護者・地域へ教育活動の理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 3密を回避するため、公開する人数を分散する方法を講じたり、オンラインを活用したりすることで、学校の様子を伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子が伝わるよう工夫を講じているという項目のアンケートにおいて、満足度90%以上 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の学校アンケート「学校に楽しく通っている」の項目で肯定的な回答が約93%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開で子供たちの学習の様子や生活の様子が見られてよかった。今後は、今までのような公開になると嬉しい。 実際に見てみたいとわからないこともあるので、学校公開などはできるだけ実施してほしい。 個人面談の時間がもう少し長くなるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染状況に応じながら、学校公開や学校評議員会を実施する。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	<ul style="list-style-type: none"> 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 会議等を精選し、時間外労働時間の短縮化。 C4h等を活用した情報の共有化 学校経営支援を担う人材の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外労働時間を平均40時間台を目指す。 C4hのメール等の機能を使った情報共有化を90%以上を目指す。 スクールサポートスタッフ、副校長補佐等の人材を活用し、校務軽減を目指す。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 時間外労働時間の平均が40時間台から50時間台である。 日常的な連絡事項はほぼC4hを活用して状況共有ができています。 学校経営支援人材を活用したことで事務処理等の業務の削減につながった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の在任時間の長さについて心配している声がある。負担を軽減し、教育活動に専念できるように環境を整えていくことも必要である。 教育活動の充実のため、今後も引き続きご尽力お願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> 長時間勤務になってしまう教職員への声かけや、改善に向けた取組の工夫を図る。 情報共有後の検討事項の連絡・確認の方法の工夫について
	理科教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 科学センター拠点校の利点を生かした授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 観察実験アシスタント等を活用し、工夫した教材と質の高い授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「理科が好き」と答える児童90%以上 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 理科の授業が楽しいと答える児童89.2%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 科学センターの取組は、とても楽しく参加でき、引き続き活動してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察を通して、主体的な学びと思考力や表現力の向上を目指す。
	本物に触れる、専門家から学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 農作業等の体験や農園での自然体験、芸術家などの専門家から学ぶ機会を通して児童の学びと学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 農園ボランティアの方との連携、三味線、食育などのゲストティーチャーを招いての授業 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートによる各体験、学習の、満足度90%以上 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防対策のため人数の見直しや場所の確保の工夫を図り、従来の活動を行えるようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防対策も講じつつ、それぞれの活動を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防対策を講じながら可能な活動を実施する。